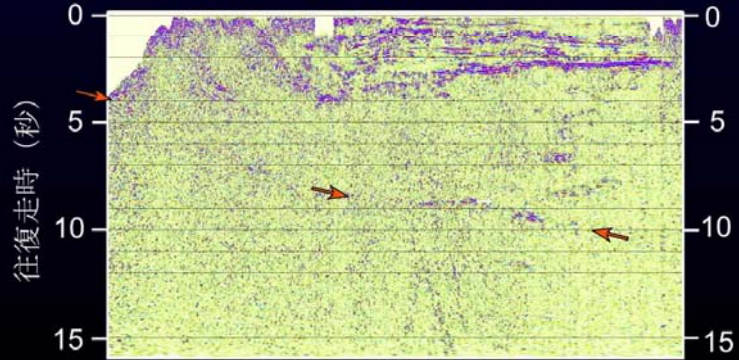
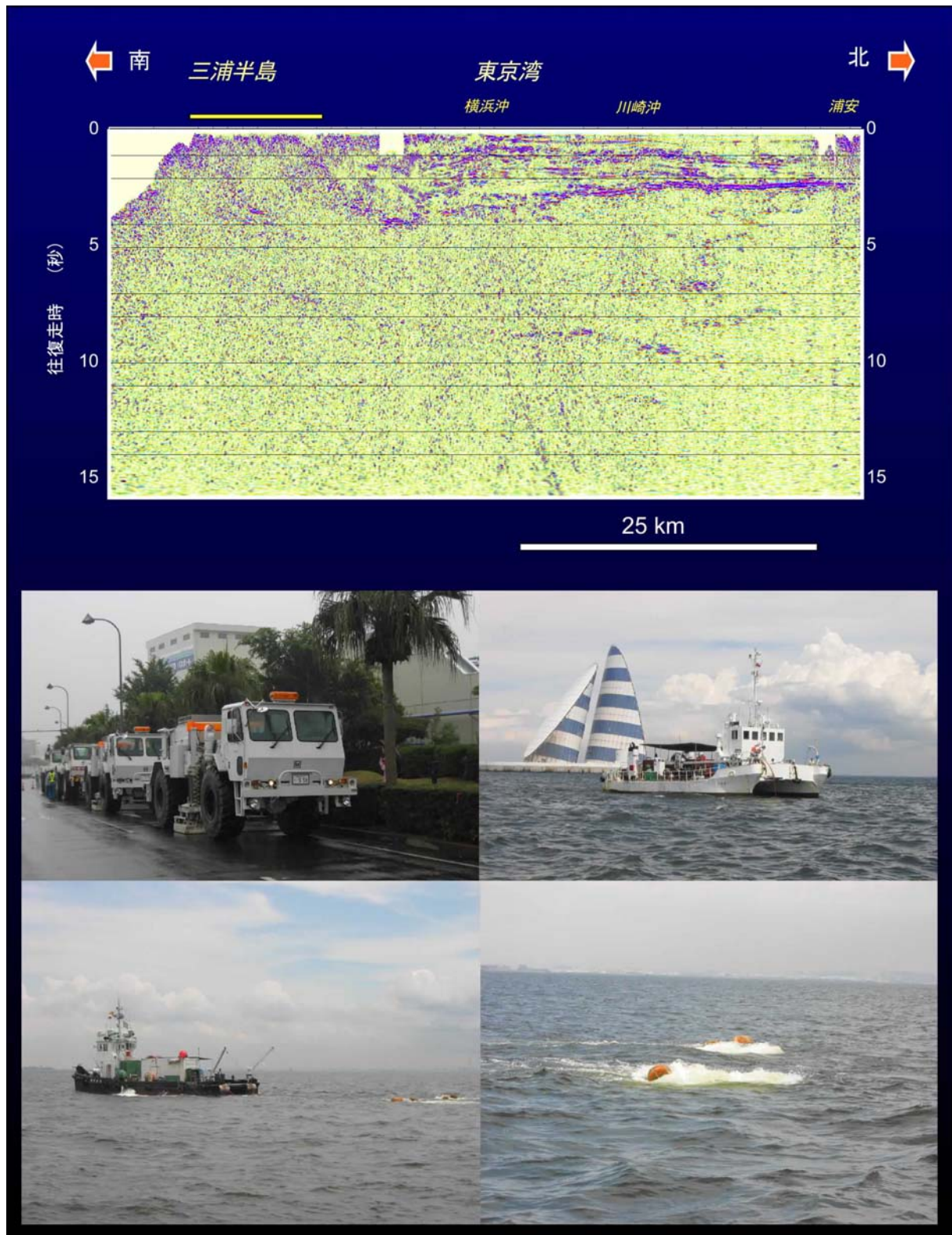


25 km

東京湾2003



「大都市圏地殻構造探査」反射法地震探査断面（時間マイグレーション断面、3.1.1参照）。矢印はフィリピン海プレート上面。人工衛星画像を用いた俯瞰図は（株）地球科学総合研究所による。



東京湾地殻構造探査（東京湾 2003、3.1.2 参照）

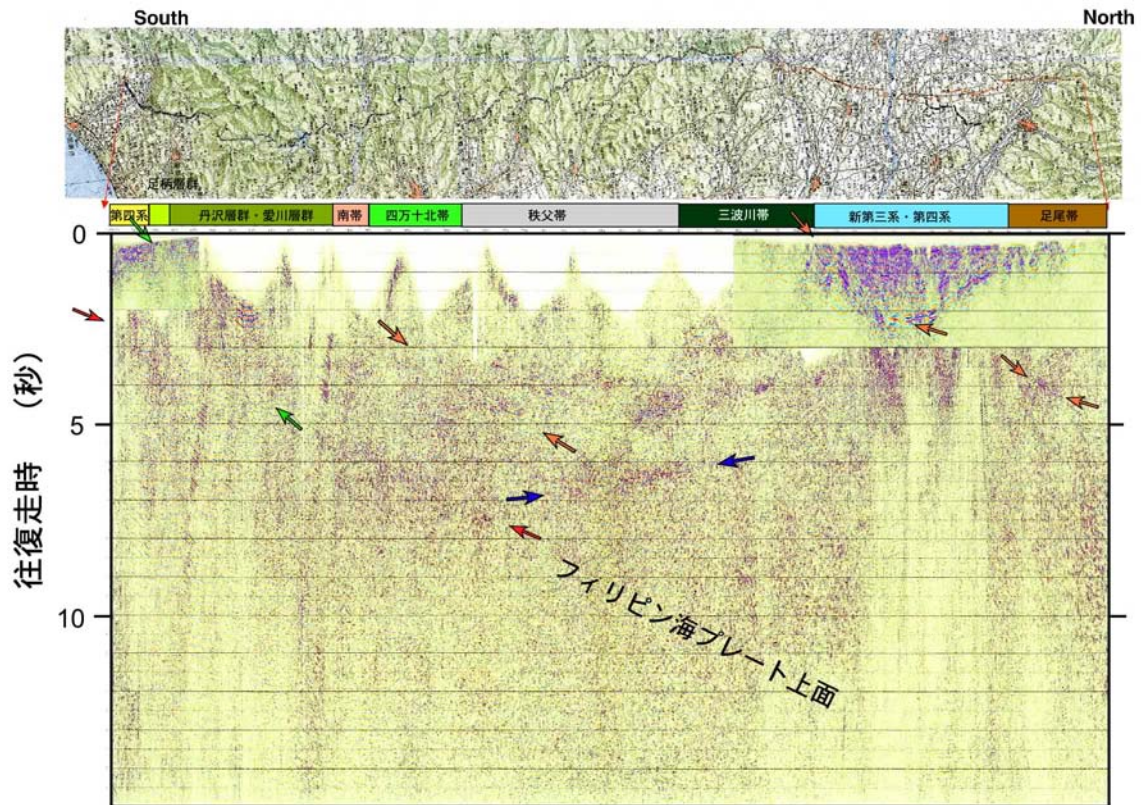
上：反射法地震探査時間マイグレーション断面

左中：陸上の震源として使用したパイプロサイスの発震風景。

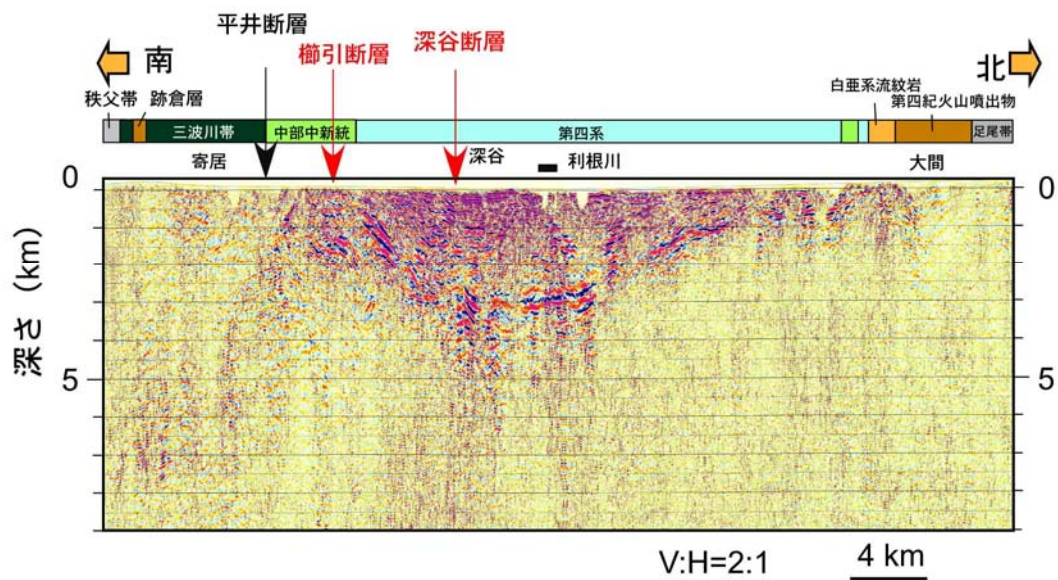
右中：海底ケーブル型受振器の敷設風景。海ほたるの近傍。

左下：海域の震源として使用したエアガンの発震風景。

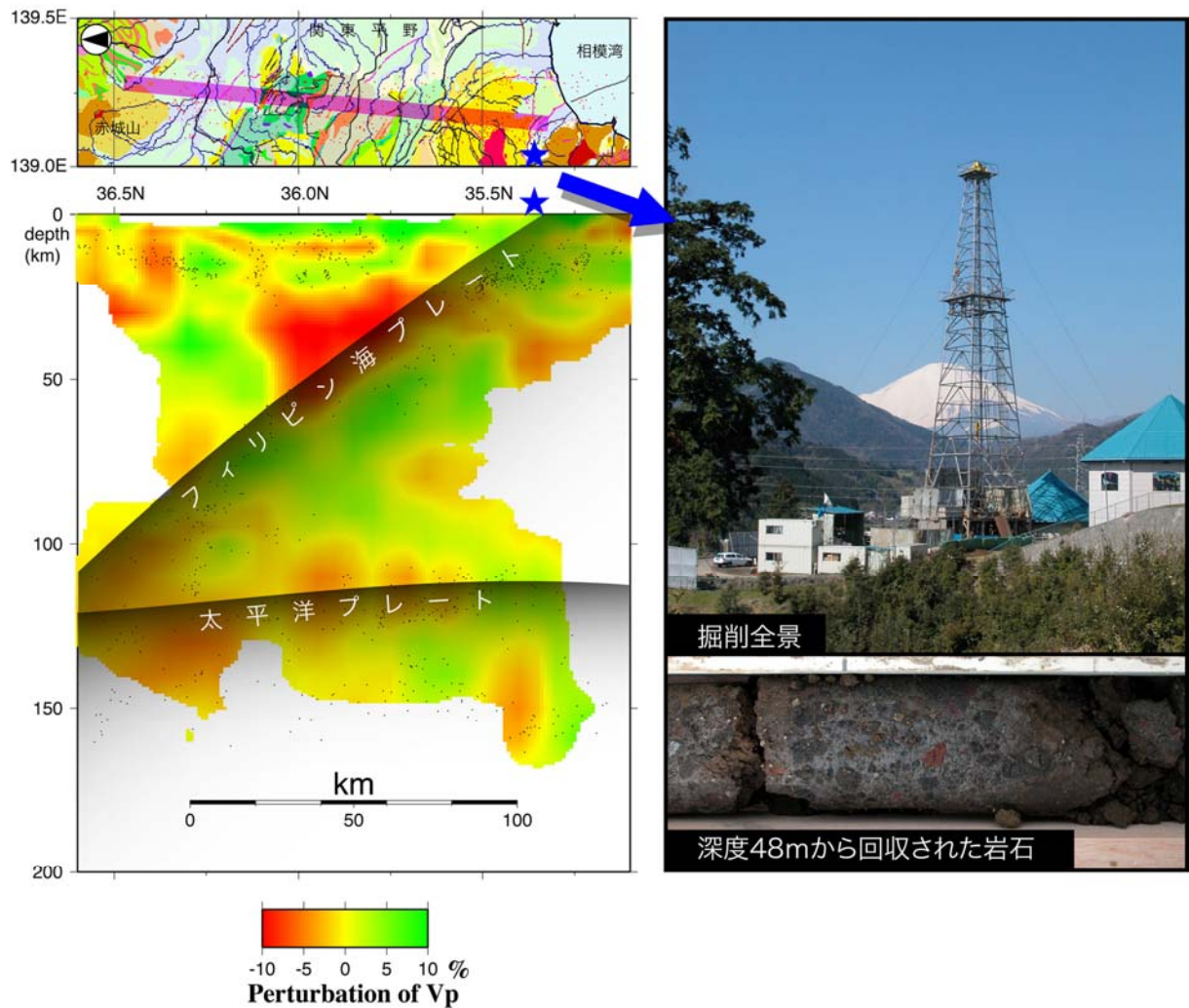
右下：エアガンによって放出された圧搾空気による気泡。



関東山地東縁測線（関東山地 2003）における低重合時間マイグレーション断面
 (3.1.3 参照)

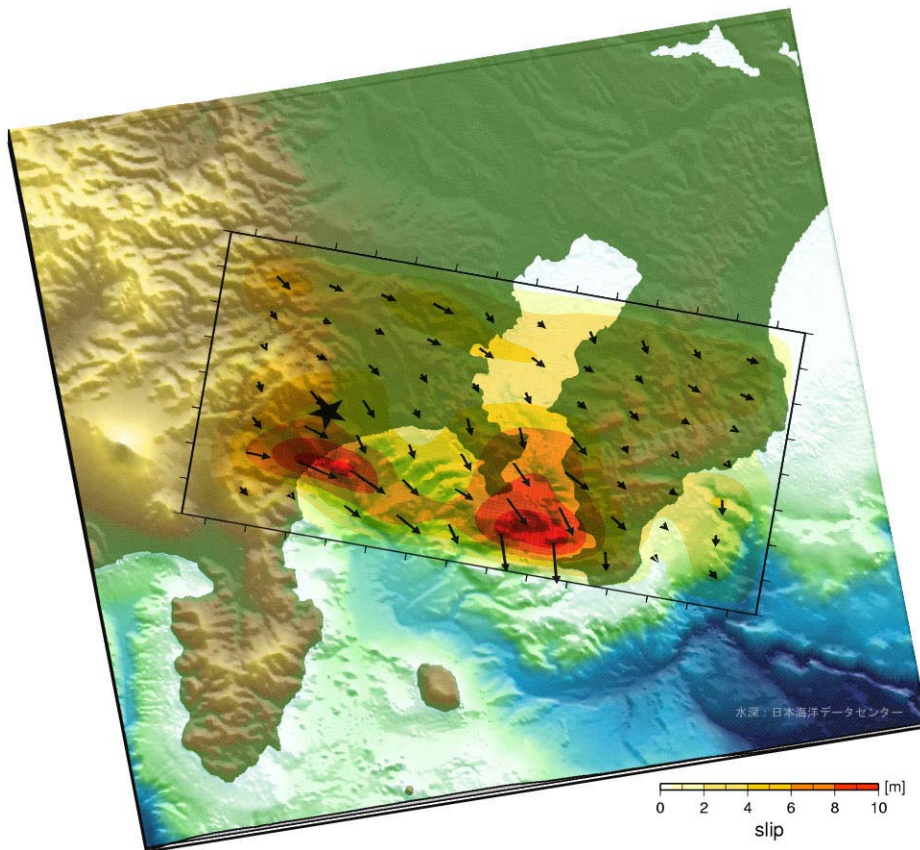


関東平野北西部を縦断する反射法地震探査断面（深度変換断面、関東山地 2003
 「桐生バイブレーター測線」、3.1.3 参照）

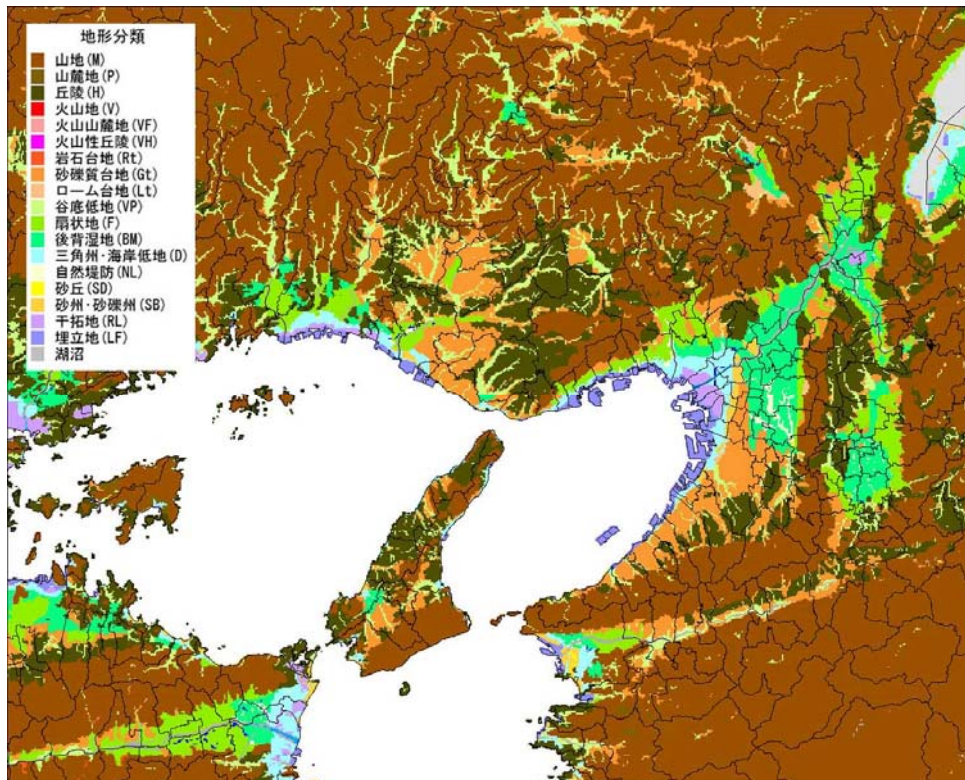


神奈川県山北町における大規模ボーリング調査 (3.2 参照)

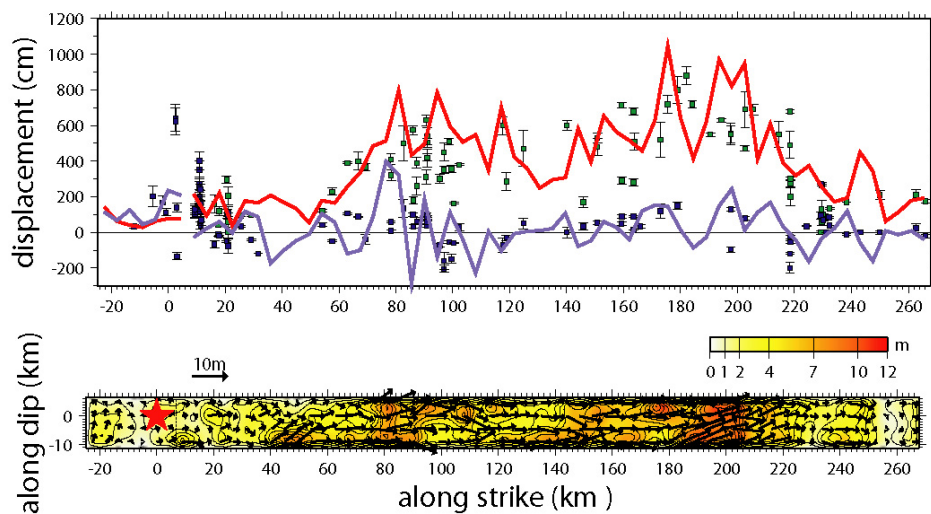
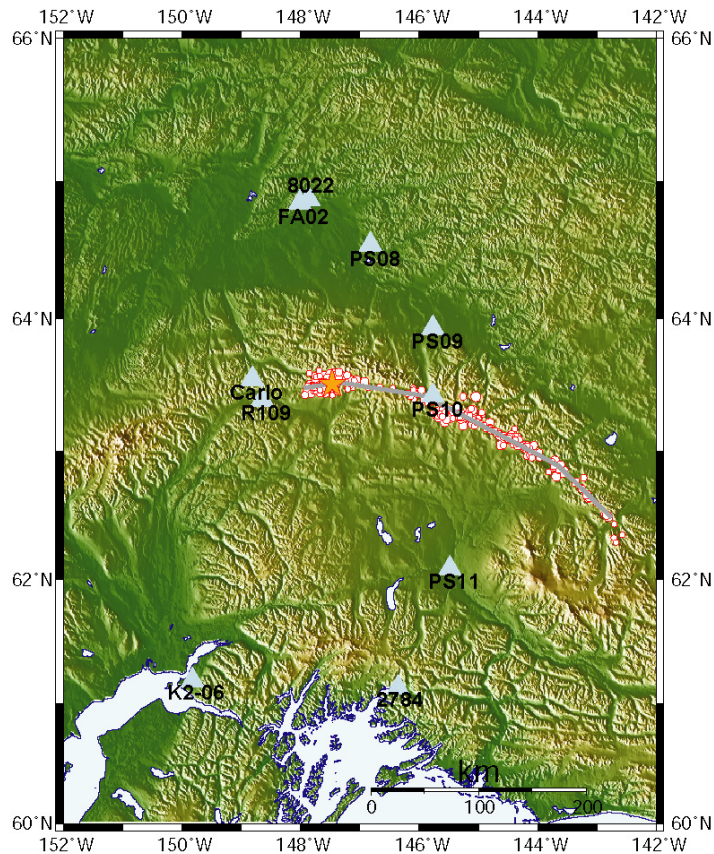
- 左 : 関東山地東縁地殻構造探査 (3.1.3 参照) の測線に沿った P 波速度断面を自然地震によるトモグラフィー解析で示した (3.2.3 参照)。
平成 15 年度の深度 2000m 級ボーリング掘削地点 (★印) は伊豆半島 (フィリピン海プレート) と本州弧との衝突境界に位置する。
- 右上 : ボーリング掘削の全景
- 右下 : 深度 48m から回収された岩石の拡大写真。凝灰角礫岩から構成され、“箱根古期外輪山” の噴出物と考えられる。



1923 年関東地震のすべり分布 (3.3.3.1 参照)



近畿圏の地形・地盤分類図 (250m メッシュ、3.3.5.2 参照)



強震及び GPS データを用いた 2002 年アラスカ・デナリ地震のすべり量分布と 地表地震断層の比較

アラスカ・デナリ地震 (Mw7.9) は既存の活断層であるデナリ断層系で 300 km にも及ぶ地表地震断層を引き起こした (上図星は本震の震央で赤い丸は余震の震央を表す。△は強震観測点)。強震記録及び GPS による水平変動記録を用いた震源 インバージョンにより求められた断層面上のすべり分布 (下図) のうち、もっとも浅いサブ断層のすべりと観察によって得られた地表地震断層の食い違いの比較を行った。折れ線がサブ断層のすべり量分布 (水平方向が赤色、垂直方向が青色)、点が観察された食い違い量 (水平ずれが緑色、垂直方向が青色) である。両者はよく一致している (中図)。(3.8.1 参照)